

国指定重要文化財

東光寺

亀居山 薬師院 真言宗醍醐派 〈本尊〉薬師如来 塩飽島 33 寺の触頭として明治中期まで住職が輪番制であった。本堂に鎌倉時代の建築様式が残る。本尊の薬師如来は平安時代の作で国指定の重要文化財である。脇侍の不動明王、毘沙門天も鎌倉時代の秀作で宝物の鰐口とともに市指定文化財である。

木造薬師如来坐像 (国指定重要文化財)

平安時代の仏教美術で、檜の寄木造、高さは 142.5 cm、漆箔の坐像。地方のものでは珍しく大型の坐像である。

左手はひざの上で薬壺を持ち、右手は掌を前に出して施無畏の印を結び、右足を下に左足を上にして結跏趺坐の姿勢をとる。頭に小粒の螺髪を刻み、まるく温雅な面相で、肉どりもよくひきしまっており、衣紋は薄手で流麗である。平安時代独特の都風の典型的な藤原彫刻の美作とされている。

ご真言 オン コロコロセンダリマトウギ ソワカ を唱えて感謝すると、健康のご利益が授けられると伝わっています。

木造薬師如来坐像 (市指定文化財)

直径 23.2 cm、厚さ 6.6 cm、重さ 938 g のものである。「奉懸朝倉天王宮鰐口一口」左側に「応永十二年卯月二日願種积東白」の銘がある。応永 12 年(1405)の朝倉郷天王宮奉献の際、銘を刻んだものらしい。



木造薬師如来坐像



木造薬師如来坐像 (市指定文化財)

もくぞうふどうみょうおうぞう もくぞうびしゃもんでんぞう
木造不動明王像・木造毘沙門天像（市指定文化財）

東光寺にある重要文化財の木造薬師如来坐像の両脇侍で、ともに鎌倉時代中期の立像である。

不動明王像

五大明王の一つで大日如来が一切の悪を払うための憤怒相に化身したとされる像。不動明王像の高さ 145.5 cmの寄木造

毘沙門天像

たもんでん じこくてん ぞうちやうてん こうもくてん
多聞天とも呼ばれ、持国天、増長天、広目天とともに五穀豊穰に大切な役割を持ち四天王に数えられている。毘沙門天像の高さ 146.5 cmの寄木造



もくぞうびしゃもんでんぞう
木造毘沙門天像



もくぞうふどうみょうおうぞう
木造不動明王像